

卒業生 — その後 —

<ピラーンの若者3人が新しいコミュニティ作りに奮闘しています！>

前号で「弁護士を目指して勉学継続中」と報告したスヌーリア。9月になって、「住民組合を育成している、民族の伝統を受け継ぐハイスクールも作りたい」というメールが本人から届きました。弁護士云々は寮の後輩による情報で単なるうわさだったのかもしれませんが。

仲間のために働きたいとCMB就職を希望してFr. Vicに直訴していたスヌーリア、志は本物でした。CMBがだめなら自分たちでと、アメリカにいる従兄弟とその友人から資金協力の約束を取り付けました。同じアトゥモロック出身のジュニアワタ（車整備コース卒業）とドリ（農学部4年中退）も仲間に加わりました。スヌーリアの家族もすでに組合の畑で働いているようです。アトゥモロックに組合立学校はすばらしい企画ですが海外資金への依存率が問題です。次回訪問時に会って確認したいと思います。



マルチノ（ツガルの巡回診療の日に） スヌーリア（一番左）ドリ（3番目）と同期の奨学生（マーベルで

<学んだ農法を村の仲間に伝えたい —ダバオ有機農法研修所2期生マルチノ—>

「ここはコーン、隣はピーナッツ、バナナは周辺に・・・」マルチノはダバオの有機農法研修所で学んだ多角的農業の理念に基づいて、自分の1haの畑の区割りを紙に書いてくれました。

彼も本当はリコのように、CMBスタッフとして隣村キアミにモデル農場を作ってその管理と指導をしたいようですが、CMBは新たにスタッフは雇わない方針で、マルチノは当分自分の畑をモデル農場とするしかないでしょう。隣近所が目を見張るほどの収穫を上げて欲しいと思います。

<ハイスクール奨学生近況 >



中央の二人が4年生のラッチェル（左）とメイリーン（右）。MSU合格の可能性のある奨学生です。（9月・ミアソン寮で）

9月訪問時、奨学生担当のジョイから、今年のMSU入試はハイスクール4年生全員（ミアソン6名、ノビシエート9名）がトライしたとの報告を受けました。結果は1月に outcomes 出ます。

会の資金難と大学を出ても就職がむずかしいミンダナオの状況から、授業料が数倍の私立は2004年度からHANDS奨学金の対象からはずしました。MSU以外では、農業、助産師など2年課程の専門学校生を若干受け入れる予定です。

訪れたミアソンでは、昼休みに寮に帰った子ども達と一緒に食事をしました。「今年から70点以下の不合格教科が一つでもあると留年と決まったが、卒業が1年延びても支援してもらえますか」というMSU挑戦どころか、ハイスクールを

卒業できるかどうかという心配でした。町で働くにはハイスクール卒の資格が必要と聞いています。即答はまずいかなと思いつつも、その1年生の心配そうな顔に「1年だけなら」と答えてしまいました。今後フォローが必要な失言と反省しています。（山崎）